

## 生きた証



私たちは日々いろいろなことに喜び、悲しみ、時には悩み生きています。自分では必死で生きているつもりでも、今この瞬間に飛行機から地上を見下ろしたとき自分の存在はきわめてちっぽけなもので、その存在すら認識できないでしょう。

この宇宙の歴史の中で、中には歴史に名を残す人もいますが、多くの人々は水もに浮かぶ泡のように本当に取るに足らない存在でしかなく、歴史の流れの中に消えていきます。個人の人生とは何とはかないものなのでしょうか。

私が中学時代に、ある先生に突然呼び止められ「お前は何のために生きていると思うか」と聞かれたことがあります。私はその時答えに窮してしまいました。いかに一生懸命生きているつもりであっても、個人の存在は宇宙の大きな歴史の流れの中では、はかないものでしかありません。しかし、では一人一人が生きていることには意味がないのかと言えばそうではないはずです。私達一人一人は長い人類の歴史の中で過去の人々が命を引き継いで来たからこそ現在存在するのです。そして私達が次に命を引き継いでいかないと、私達の子孫はこの世から永久に途絶えてしまいます。

ただし私達が今現在この世にあるのは単に命を引き継いでいくだけの役割ではないでしょう。この世の中にある様々なものは、過去の多くの人々によりつくり、改良され伝えられてきたものです。音楽も文学も、工業製品も、日常生活のあらゆる場面で接する全てのものは過去の多くの人々の手を経て伝えられているものです。ものだけではなく私達の心の中にも周囲の人々や、過去の色々な人々から伝えられたものでつまっています。そこに過去に生きた一人一人の生きた証が凝縮されているのです。

「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」という諺もありますが、有名な作曲家や画家や文学者等によりつくり出されたものは、その人は亡くなくてもその作品と名が残されています。一般の私達が歴史に残るような業績は残せなくとも、何か自分自身の生きた証はそれぞれの方法で残せると思います。それは形でなくとも良いと思います。綺麗に咲き誇る花は、昆虫に蜜を与え、それを見る人々を和ませ、やがて枯れ落ちていきます。その花はその時を精一杯咲き誇ったのです。

私達人間も、形として残さなくとも、自分という人間が今のこの時代に生きたという証を別の人々に引継ぎ残せるような生き様を心がけたいものです。そして今自分に与えられた生を精一杯生きることが、何よりも自らの生きた証を結果として残すことに繋がるでしょう。それが個人個人の生き甲斐に繋がっていくものではないのでしょうか。



### 【今日の名言】

「ひらめき」は

天から降ってくるものでなく、  
ひらめくだけの根拠を必要とする。  
それは、いつ何時も

考え続けること。

すると、刺激を受ける。  
世の中のすべてが「刺激」になる。  
(雑誌「DIME」、夏目幸明)